

ピース・ウイング長崎 会報

へんりゃ

165号

公益財団法人 長崎平和推進協会
<https://www.peace-wing-n.or.jp/>

- 令和2年度 長崎平和推進協会の予算と事業について
- 青少年ピースボランティア鹿児島・広島研修！ ■ Youth Conference in Nagasaki
- 被爆体験の深化講座 ■ 映画「祈り」長崎県内でロケ
- 継承部会英語研修会の発表会 ■ 販売利益が協会へ寄付されました
- アジア青年平和交流事業 2019 ■ 来訪者コーナー ■ 会員の広場
- TOPICS！ (女優の石原さとみさん追悼平和祈念館来館 ほか)



Youth Conference in Nagasaki (追悼平和祈念館交流ラウンジ)

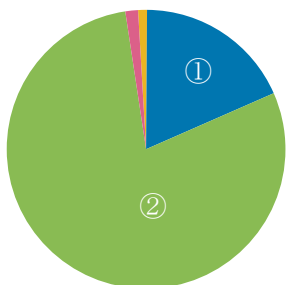


長崎平和推進協会の 予算 と 事業 について

令和2年度は、**被爆75周年**です。

「長崎には被爆後75年は草木も生えない」と言われました。

この悲劇を再び繰り返さないよう、様々な記念事業にも力をいれます。



① 平和	62,820 千円
② 祈念館	271,624 千円
③ 収益	5,385 千円
④ 法人	3,083 千円

- ① 平和推進事業 … 被爆体験講話等、協会が独自に行っている事業に加え、継承事業を長崎市から受託し実施します。
- ② 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館運営事業 … 国から受託します。
- ③ 収益事業 … 原爆・平和関連のオリジナル書籍、グッズを販売します。
- ④ 法人会計 … 協会全体の管理・運営を行います。

★昨年9月から原爆資料館等の指定管理者制度が導入されたことに伴い、受託事業の長崎原爆資料館原爆・平和総合案内業務、長崎原爆資料館図書資料収集整理業務を廃止しました。

長崎平和推進協会の被爆75周年事業

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を目指します！

女優たちの原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」

2020 特別編 in NAGASAKI

8月30日(日)

場所：原爆資料館ホール

※出演女優、脚本家と永遠の会との

交流会も開催予定

(追悼平和祈念館交流ラウンジ)



被爆75周年記念「ナガサキ原爆写真展」



「写真による継承のかたち」をテーマに、原爆写真展を開催します。

7月22日(日)～27日(木)

場所：市立図書館多目的ホール

設立記念事業講演会(拡大して開催)

被爆75周年にふさわしい方に出演依頼中。

日程等は未定ですが、詳細決定後お知らせします。



被爆者証言映像(DVD)の作成

被爆者の高齢化に伴い、被爆者の病気などで、急に被爆体験講話ができなくなった場合にDVD等で対応するため、既存の映像を編集して作成します。



被爆体験記企画展示+平和写真展



被爆体験記、被爆された方のご遺族・ご友人が書かれた追悼記を写真と併せて展示します。

7月～8月(2週間の予定)

場所：追悼平和祈念館交流ラウンジ

国際青年平和フォーラム(長崎市からの委託事業)



長崎にゆかりのある若者を招いて、平和の取り組みの活動報告や意見交換、平和交流を行います。

※写真はイメージです

収入

(単位：千円)

長崎市の補助金	受託事業収入	会費	寄付金	積立取崩	その他
28,210	26,683	4,230	534	5,800	332

支出

1 発刊	2 啓発	3 調査	4 育成	人件費・事務費	法人会計
1,135	10,169	100	16,806	34,610	2,969

皆さまからいただいた**会費**や**寄付金**は、平和推進事業と法人会計で使われます。左の表は2つの会計の収入と支出を表しています。



4 育成事業

● 平和案内人派遣

案内を希望される方に対し、長崎原爆資料館、追悼平和祈念館等や被爆遺構の案内を行う平和案内人を派遣します。

● 平和案内人育成（昨年度持ち越し分）

新型コロナウイルス感染症の影響により、第7期生育成講座を持ち越します。

● 部会活動

協会会員の自主的活動を図るための4部会の活動を支援します。また、米国国立公文書館資料検証業務を長崎市から受託します。

● アジア青年平和交流事業（P7 参照）

● 語り継ぐ被爆体験（家族・交流証言）推進

被爆者の被爆体験を語り継ぐ「家族・交流証言者」を支援、長崎市内に派遣します。

● 青少年ピースボランティア育成

青少年が被爆の実相や戦争について学び、平和について考え、行動することにより、被爆体験の継承と平和意識の高揚を図ります。

● 青少年ピースフォーラム

8月8・9日、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年と地元長崎の青少年とが一緒に学習し、交流を深めます。

新 青少年平和交流（高校生海外派遣）

長崎の高校生5人を海外（ハワイ）に派遣し、現地の若者と意見交換や平和交流を行います。

新 国際青年平和フォーラム

長崎にゆかりのある若者を招いて、平和の取り組みの活動報告、意見交換など高校生の目線での平和発信を行います。

1 発刊事業

- 会報「へいわ」（年4回）、協会の事業概要をまとめた「平和のあゆみ」（年1回）、情報BOX（月1回）の発行等により情報発信を図ります。今後、ペーパーレス化を図り、希望者へはメールでの送付を行います。

- ホームページやLINEを充実し、協会の最新イベント情報等を発信します。



LINE QR コード

2 啓発事業

● 平和学習の実施

被爆体験講話者や外国語ボランティアガイドの派遣、平和学習用のDVD・長崎原爆被災写真パネルの貸し出しを行います。

● 講演会等の開催

平和への認識を高めるための講演会を催します。

● 国連軍縮週間行事「市民のつどい」開催

国連軍縮週間に合わせて「市民のつどい」を開催し、戦時食、平和のメッセージを紙風船に書くコーナーなどを行います。

新 県外原爆展開催

原爆について触れる機会の少ない県外で、被爆体験講話や、写真パネル・被災資料の展示を行います。令和2年度からは、これまでの未開催県での開催に加え、若い世代へ被爆の実相を伝えるため、大学で原爆展を開催します。

3 調査研究

平和・軍縮関係の会議やシンポジウム等に参加し、情報収集や関係機関との交流・意見交換を図ります。



原爆や平和に関する書籍やグッズを独自で作成し、ホームページや原爆資料館売店で販売。利益の50%は平和推進事業の財源に充てています。

ホームページアドレス
<https://www.peace-wing-n.or.jp/shop/>



平成15年に開館した「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」の管理・運営を国から受託します。令和2年度は、被爆体験記等の収集に加え、被爆者ご本人の市外派遣など、今しかできない事業を拡充していく予定です。

「自分たちに何ができるのか」を考える

長崎で平和活動を行っている青少年ピースボランティアが鹿児島と広島を研修として訪れ、平和関連施設の見学や、それぞれ地元の若者と交流し、意見交換を行いました。

鹿児島



第二次世界大戦末期の沖縄戦で人類史上類のない特攻作戦で飛行機もろとも敵艦に体当たりした陸軍特別攻撃隊員の遺影、遺品等を見学しました。

知覧特攻平和会館

広島



原爆ドーム



原爆死没者慰霊碑の前で皆で黙祷しました。

ホテル館・富屋食堂

特攻の母として慕われた鳥浜トメさんの食堂を完全復元した施設では、展示されている特攻隊員の遺品・写真を見学しました。



広島平和記念資料館・被爆体験講話

広島平和記念資料館の見学後、笠岡貞江さんの被爆体験講話を聴講しました。



黎明館

鹿児島県歴史資料センターで旧石器時代から現代までの鹿児島の歴史を学びました！



交流会

広島ピースクラブと交流！お互いに平和活動をしているため、活発な議論となりました。



交流会

樟南高等学校の生徒との交流！グループに分かれて意見交換を行いました。樟南高校の先生からも戦争についてのお話を伺いました。



袋町小学校平和資料館

案内人の方から、被爆した校舎の壁には、安否を尋ねる伝言が書かれていたことなどの説明を受けました。



青少年ピースボランティア 平林 万奈満さん

青少年ピースボランティア 山下 豊さん



鹿児島研修では、知覧特攻平和会館等を見学し、原爆とは違った苦しみがあったことを知り、私と同じ年代の特攻隊員の手記等を見て涙が出そうになりました。

また、「平和活動でどんなことができるか」について樟南高校生徒との交流会では、「SNSで平和を提唱し、より多くの人に発信する」など、今の時代にあった案が出ました。「平和な世の中を作る」という目標は、大きく漠然としているため、実現に向けた方法も大きなものを考えがちです。しかし大きい目標だからこそ、身近なところから取り組むことが近道だと思います。まずは、今回学んだことを周りの人に気軽に話し、意見交換をすることから始めたいと思います。

広島平和記念資料館を見学すると、遺品とともに亡くなった状況が展示されており「この方はあの時間まで生きていたのだ」と感じました。展示室を出ると広島の街が見え、歴史があり今の街があるのだと心打たれました。また、長崎と広島の被害の大きさの違い、爆心地の違いなども感じました。

その後の広島ピースクラブとの交流会では、平和に興味がない人へのアプローチを考え、両県にあるプロスポーツを通じて、試合などで企画展示をできないかという話になりました。長崎と広島の違いや似ている点を改めて確認し、多くの人を巻き込んで活動できればと感じた研修になりました。

Youth Conference in Nagasaki

実際に見る、交流することで

第1回目の「Youth Conference in Nagasaki」を3日間に渡って開催しました。マレーシア、韓国の学生、大学の留学生、日本人学生、13か国30名が集い、核兵器廃絶について話し合いました。



原爆とは、核兵器とは

1日目は祈念館、原爆資料館見学、山脇佳朗氏による被爆体験講話に続き、長崎市長、広瀬訓氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター副センター長）、ブライアン・バークガフニ氏（総合科学大学教授）の3名を講師に迎えて講話を行いました。山脇氏の講話では、想像を絶する被爆体験に参加者は熱心に耳を傾けました。長崎市長は「Message from Nagasaki」をテーマに、若い皆さんから世界へ平和を発信してほしいと話しました。広瀬氏は核の現状について、バークガフニ氏は長崎の歴史を紹介し、全ての講義で多くの質問が寄せられました。



どうして核兵器がなくなるのか？

2日目、3日目は、中村桂子氏（長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授）、山口響氏（同センター客員研究員）がコーディネーターし、グループディスカッションや発表を行いました。「なぜ核兵器がなくなるのか」の問いには、それぞれの国の状況も反映するものも多く、グループとしての結論を出すために真剣なディスカッションが続きました。昼休みには昼食を取りながらも、小学校・中学校で受けた平和教育について情報共有し、国によって大きく異なることを驚く一方、原爆についてあまり学ぶ機会がないことが共通していました。



核兵器廃絶のために、私たちができること

会議後半は核兵器廃絶のために自分たちができることは何かについてディスカッションし、報告会を行いました。多くのグループが個人の活動を国際的な取り組みへつなげることが重要であると述べ、そのための方法として若者への平和教育推進とSNSでの発信などを提案しました。また「私の今年1年の抱負」も発表し、会議終了後、それぞれの国や大学で今回の経験を共有し、継続的に平和活動を行う決意を表明しました。3日間の会議で参加者同士の交流が深まり、若者たちの平和のネットワークが広がりました。



SNSで発信し情報共有する



詩を書く



子供のためのお芝居上演



1年の決意!



マラヤ大学東アジア研究所 ナスルディン・アキール准教授 平和特派員に!

ナスルディン・アキール氏は、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が実施する「アジアの若者による平和ネットワーク構築プログラム」への参加の他、「ヒロシマ・ナガサキ海外原爆展」のマレーシアでの開催や「家族・交流証言者等の派遣事業」のマレーシアでの受け入れを行うなど、長崎の平和の取り組みに長年貢献されてきた実績が評価され、今回長崎市の「長崎平和特派員」に認定されました。

映画「祈り - 幻に長崎を想う刻 -」
長崎県内でロケ



「サククラ花 桜花最後の特攻」などで知られる松村克弥監督が、被爆75周年を記念した映画「祈り」を制作しました。長崎市出身の劇作家、田中千禾夫氏の「マリアの首」を原作に、原爆で壊滅的な被害を受けた旧浦上天主堂の取り壊しに伴って、撤去の動きがある被爆マリア像を守ろうとするカトリック信者の物語。2月に行われた川棚町（魚雷発射試験場跡）のロケでは、主役の高島礼子さんが8月9日の被爆2時間後の様子を再現し、当協会の横瀬理事長も医師の立場から様々な助言を行いました。

この映画は、本年7月に長崎県内で先行上映し、9月から全国で公開される予定です。

被爆継承をさらに進めていく
被爆体験の深化講座



2月2日、原爆資料館で、継承部会継承交流班による「被爆体験の深化講座」が開催されました。第3回となる今回は「学徒動員」をテーマとして、学徒動員を経験した部会員2人が、担当していた兵器の部品作りの話や、生活の様子を話しました。工場で使っていた機械がアメリカ製で「大切に使うように」と言われていたこと、当時は配給が滞っていて家庭では食べるものがなかったものの、工場には弁当が支給され、家族に申し訳なく思ったことなども語られました。

会場からは「工場に行くのを嫌だ」ということがあったか、「給料は出たのか」などの質問が出され、一つ一つに丁寧に答えていました。



高校生が平和の思いを込めた焼きドーナツを開発！
販売利益が協会へ寄付されました



長崎市立長崎商業高等学校商業クラブが、平和の思いを込めた開発商品の利益を当協会へ寄付してくださいました。

商業クラブは、姉妹校である広島市立広島商業高等学校と共同で、企業の協力を得ながら、長崎の舌岐焼酎と広島瀬戸田レモンを使った焼きドーナツを開発しました。世界中に笑顔の輪を広げたいとの思いから「SMILING」と名付けられたこのドーナツは、実習などで販売されました。「世界では武力による紛争がまだまだ絶えません、今後も身近で、身の丈にあった取り組みを考えていきたい」と活動が続けるそうです。

なお、このドーナツは、長崎市内の洋菓子店「ボンソワール」で購入できます。



被爆者が英語で体験を語る
継承部会英語研修班の発表会



2月16日、追悼平和祈念館で、被爆者自らが英語で被爆体験を語る発表会が開催されました。これは、2年前に継承部会の有志で結成した英語研修会が、昨年4月に継承部会の英語研修班として認められ、活動してきました。この間、長崎外国語大学や長崎大学、活水大学、長崎県立大学に出向き、留学生を対象に、英語力を磨いてきました。

継承部会最高齢92歳の築城昭平さんをはじめ、末永浩さん、計屋道夫さん、大庭義弘さん、松本美都恵さんの5人の被爆者が、外国人ら約50人の聴衆に向けて、鍛え上げた英語を披露しました。

参加した外国人の方からも好評を得ました。英語研修班では、さらなる研鑽に努め、今後も英語の被爆体験講話を続けていく予定です。

来訪者コーナー



広島平和文化センター理事長
小泉 崇 さん

今年1月に追悼平和祈念館を訪問された広島平和文化センター理事長の小泉さん。就任後初めての長崎訪問となりました。

40年にわたる外交官生活では、東ティモールの内乱、ブルガリアの共産主義体制崩壊、国連平和維持活動への参画などを経験され、いかに平和が大切であるか、ひとたび崩れた平和を立て直すことがいかに大変であるか、国際社会が協力して取り組むことがいかに重要であるかを痛感されたそうです。そして、「核兵器は人間が作り出したものであるから人間がこれを廃絶できないわけがない」との強い思いをもって現在、任務に当たっておられます。お話しされる物静かで真剣なお姿から、小泉さんの思いが強く伝わってきました。

アジア青年
平和交流事業
2019

「自分達が考える国際・平和交流」をテーマに長崎の若者自ら企画した事業を行ってもらう本事業に、今年度は2チームの応募がありました。例年3月に開催している報告会は、残念ながらコロナウィルス感染拡大防止のため中止となりましたが、それぞれの活動について報告してもらいました。

長崎純心大学
Green Pieces



外国人と若者が一緒に平和について考える
「Peace Forum」を開催

「Peace Forum」は、昨年度に引き続き2回目の開催となりました。今年度は、昨年度の良いところは残しつつ、反省点は改善しながら進めていきました。初めは参加者がなかなか集まらず不安な時もありましたが、最終的には日本人外国人参加者合わせて約50名の方が集まり、各々が平和について考え、活き活きと話し合いをしている姿が印象的でした。

また、今年度新たに設けた第2部の交流会では、第1部で話し合いをした班以外の参加者と話すことで、更に様々な国籍やバックグラウンドを持った方達と交流ができる機会になったと感じています。感想では「また参加したい」との声も多く、今年度のPeace Forumは昨年度以上の盛り上がりを残せたのではないかと思います。

長崎県立大学シーボルト校金村ゼミ
Peace Piece プロジェクト



文字や写真で平和を伝える
「平和カレンダー」を制作

私たち金村ゼミは「Peace Pieceプロジェクト」と称し、2015年から平和の発信活動に取り組んできました。5年目となる今年は、文字や写真で平和を伝える「平和カレンダー」を制作しました。慣れておらず苦労も多い活動でした。全体のコンセプトを固めるために何度も話し合いを重ねて方向性を決めた後は、12か所へ赴いて写真撮影を行い、記事を執筆しました。他にも資料の収集や編集作業など、あらゆる場面で試行錯誤をしながら形にしました。

こうした中で、私たちも新たな平和への気づきを得ることができ、平和を大切に思う気持ちが強まったように感じます。私たちの平和カレンダーが、多くの人の日常に置かれ、身近にある平和に目を向けるきっかけとなることを願います。

No. 12



お便りをお寄せください！

平和推進協会では、会員の皆様よりお便りを募集します。会報をご覧になってのご意見、ご感想、お便りなど、会員の皆様の声をお寄せください。投稿いただいた声は、広報委員会を経て、「会員の広場」で会報「へいわ」に掲載させていただきます。投稿は300字以内でお願いします。また、匿名の投稿はご遠慮ください。

E-mail : info@peace-wing-n.or.jp
〒852-8117 長崎市平野町7-8
長崎平和推進協会「会員の広場」係



Peace Wing Nagasaki
会員の広場

私の実家は長崎市である。とはいっても、父親、母親とも佐世保の方の出であったため、長崎市に住み始めたのは、私が7歳になってからだ。従って、親類等に被爆者はいない。ただ、友人には、被爆2世は多い。小さいころは、なにも考えず過ぎしたが、8月9日11時2分に黙祷することは、現在60歳になっても続けている。現在、私は長崎平和推進協会の監事という立場で会とはつながっているが、人類が平和であり続けることを訴えるこの長崎平和推進協会をいつまでも応援したい。また、この会報を多くの方々にも読んでほしいと思う。そのためにも、一人でも多くの方々に、長崎平和推進協会の存在を知ってもらい、そして会員になってもらうことが必要だと考える。

佐藤 宏文(福岡市在住)



女優の石原さとみさん 追悼平和祈念館来館

東京オリンピック聖火ランナーとして長崎を走る石原さとみさんが追悼平和祈念館を訪れました。死没者の名簿が保管されている追悼空間で祈りを捧げた後、被爆者が体験を綴った手記を読み「とても貴重なものですね」と涙ぐむ姿も見られました。

石原さんに残していただいたメッセージは、追悼平和祈念館地下2階の平和情報コーナーで、どなたでもご覧いただけます。

被爆体験講話者を全国へ派遣！

被爆体験や平和への想いを次世代に語り継ぐため、平成30年度から追悼祈念館事業として、家族・交流証言者および被爆体験記朗読ボランティアを全国の学校等へ無料で派遣し、家族・交流証言講話及び被爆体験記朗読会を開催しています。令和2年度からは、被爆者の派遣も行うことになりました。一人でも多くの方々に被爆者の生の声を聞いていただき、原爆の悲しさ、平和の尊さを感じていただければと思います。

【問合せ先】追悼平和祈念館 ☎ 095-814-0055

✉ 会報のメール配信開始

次号から、会報「へいわ」PDF版のメール配信を始めます。

会員の方で、郵送ではなくメールでの配信をご希望の方は、下記アドレスまでお名前とメールアドレスをご連絡ください。よろしくお願いたします。

長崎平和推進協会 E-mail アドレス
info@peace-wing-n.or.jp

世界終末時計「残り100秒」…20秒進み 史上最短

核戦争などによる人類の絶滅を午前零時になぞらえ、その終末までの残り時間を示す世界終末時計。米科学誌は1月23日、昨年より20秒進めて「残り100秒」と公表した。

1947年終末時計の公表を「7分前」で始めて以来、最も滅亡に近づいた。危機が高まった理由として、米国によるイラン核合意からの離脱、北朝鮮非核化交渉の停滞、米ロの中距離核戦力（INF）全廃条約の失効などを挙げている。1989年10月から核兵器の脅威のほか気象変動による環境破壊や生命科学の負の側面による脅威も考慮している。1991年ソ連崩壊で「17分前」まで針を戻したが、2018年は「2分前」だった。（広報委員長 本田貞勝）

世界の核弾頭の数（2019年6月1日現在）

ロシア	米 国	フランス	中 国	英 国	イスラエル	パキスタン	インド	北朝鮮	合 計
~6,500	~6,185	300	290	215	80	~150	130	20~30	~13,880

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）提供 <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

会員数報告

◎維持会員 1039人
◎賛助会員 153人
◎学生会員 12人
（令和2年3月19日現在）

賛助会員（団体・法人）の一覧は協会ホームページに掲載しています。
ご支援・ご協力誠にありがとうございます。

寄付者紹介

ありがとうございます

◎夏の会 (敬称略) 百五十万円
◎長崎市立長崎商業高等学校商業クラブ 二万八千八百八十四円
◎上西 和紀 一万円
◎小池 豪 一万円
◎山脇 佳朗 三千円
◎増田 馨 千円
◎匿名 二千円

会費納入のお願い

当協会の活動は皆さまの会費に支えられています。
令和2年度分の会費納入書を4月末にお送りしますので、最寄りの郵便局で納入くださいますようお願いいたします。
お支払いただいた会費は、源泉所得税の税額控除の対象になります。詳しくは当協会ホームページをご覧ください。事務局までご連絡ください。

